

令和2年度地方創生推進交付金 事業実施報告

1 地方創生推進交付金交付金の目的

同交付金は、地方公共団体が、地方版総合戦略に位置付けられ、地域再生法に基づく地域再生計画に記載された自主的・主体的で先導的な事業を実施するために、国が地方公共団体に交付するものであり、それぞれの地域の実情に応じたまち・ひと・しごと創生に資する事業の効率的かつ効果的な実施を図ることを目的とする。

2 対象事業

地方公共団体において、それぞれの地方版総合戦略に位置づけられた（又は位置づけられる予定である）事業であって、観光の振興、農林水産業の振興その他の産業の振興に資する事業。

3 事業の概要

(1) 事業名

男鹿版 DMO を核とした地域ブランドづくり推進事業

(2) 担当部課

観光文化スポーツ部 観光課

(3) 実施期間

令和2年4月～令和3年3月

(4) 事業費（実績額）

28,650,491円

（うち地方創生推進交付金 14,040,554円）

(5) 全体事業の概要

DMO 法人男鹿市観光協会を中核として、行政と市内の多様な分野の事業者が参画する「男鹿市観光推進機構」が、観光振興に関する方針や男鹿の将来像を共有し、各産業が連携した地域素材の磨き上げと商品化、継続的なマーケティング調査、一元的な情報発信・プロモーション、受入環境を整備して、地域ブランドづくりを推進し、「稼ぐ（稼げる）地域づくり」を目指すものである。

DMO 法人は、ユネスコ無形文化遺産に登録された「男鹿のナマハゲ」や続日本100名城に選定された「脇本城跡」などを代表とする「文化」、豊富な自然・アクティビティ・海山の食材を活用し「自然体験」を題材とした旅行商品の造成と売込を国内外において実施することにより、誘客及び消費拡大を図る。

また、国内需要の受け止め、拡大する外国人旅行需要に対応すべく、HPの多言語化や情報共有・発信のプラットフォームの整備を進めるとともに、外部専門家を招聘して事業者・住民向け研修会を実施し地域機運の醸成を図る。

事業の実施に際しては、民間企業から DMO 法人へ派遣を受けた専門人材が各事業の進捗管理、販路拡大のほかモニターツアーの実施などを担うことにより地域産業の連携、資源の価値を高め、加えて各種ノウハウの提供により地域の人材育成も図ることで、男鹿市の目指す将来像を実現する。

(6) 事業内容（令和2年度分）

<男鹿市執行分>

▼スポーツツーリズム【実績額：141,909円／計画額：142,000円】

○サイクリングコースマップ作成

○サイクリングイベント補助金

(1) 男鹿半島なまはげライド補助金 (2) 秋のなべっこライド補助金

▼なまはげ文化ツーリズム【実績額：1,939,200円／計画額：1,945,000円】

○歴史文化遺産を活用した地域づくり推進事業

(1) 教育旅行誘致促進業務委託等 (2) 歴史文化遺産周知活用推進

<DMO 執行分>

▼スポーツツーリズム（ソフト）【実績額：1,778,689円／計画額：1,660,000円】

○アウトドアプログラム等の受入体制の拡充とプロモーション

○e-Bike を核としたレンタサイクル事業の展開とプロモーション

▼スポーツツーリズム（ハード）【実績額：1,278,856円／計画額：1,200,000円】

○e-Bike・クロスバイク等備品購入費

▼なまはげ文化ツーリズム【実績額：4,024,230円／計画額：3,930,000円】

○歴史文化ツーリズムのブラッシュアップと商品造成

▼インバウンド誘客促進【実績額：2,033,300円／計画額：2,000,000円】

○インバウンド誘客促進の強化

▼共通事項【実績額：17,454,307円／計画額：17,210,000円】

○専門職員雇用

○マーケティング

○ツアー企画

○国内での誘客促進

○地域機運の醸成

4 重要業績評価指標及び実績（上段：KPI、下段：実績）

	項目	事業 開始前	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
			H30	R1	R2	R3	R4
1	男鹿版 DMO における旅行商品等売上収入額（千円）	2,433	2,933 (500)	3,433 (500)	4,433 (1,000)	5,933 (1,500)	7,933 (2,000)
			3,364 (931)	4,488 (1,124)	2,966 (▲1,522)	—	—
2	男鹿版 DMO が造成する旅行プラン延参加者数（人）	0	300 (300)	600 (300)	1,100 (500)	1,800 (700)	2,800 (1,000)
			405 (405)	813 (408)	384 (▲429)	—	—
3	文化・自然を題材とした体験プラン商品造成数（個）	0	3 (3)	6 (3)	11 (5)	18 (7)	25 (7)
			4 (4)	7 (3)	8 (1)	—	—
4	男鹿版 DMO が造成する旅行プランによる市内延宿泊者数（人）	0	100 (100)	200 (100)	350 (150)	550 (200)	850 (300)
			144 (144)	445 (301)	148 (▲297)	—	—

5 事業経費の内訳

	事業内容	実績額 (計画額)	経費内訳
男鹿市執行分	▼スポーツツーリズム	141,909 (142,000)	○サイクリングコースマップ作成 0 ○サイクリングイベント補助金 141,909 (1)男鹿半島ナマハゲライド補助金 (0) (2)秋のなべっこライド補助金 (141,909)
	▼なまはげ文化ツーリズム	1,939,200 (1,945,000)	○歴史文化遺産を活用した地域づくり推進事業 1,939,200 (1)教育旅行誘致促進業務委託等 (0) (2)歴史文化遺産周知活用推進 (1,939,200)
	▼インバウンド	0 (0)	○誘客促進トップセールスとプロモーション 0 ○外国人観光誘客促進補助金 0
男鹿版DMO執行分	▼スポーツツーリズム (ハード)	1,278,856 (1,200,000)	○e-Bike・クロスバイク等備品購入費 1,278,689
	▼スポーツツーリズム (ソフト)	1,778,689 (1,660,000)	○アウトドアプログラム等の受入体制の拡充とプロモーション 714,310 ○e-Bikeを核としたレンタサイクル事業とプロモーション 1,064,379
	▼なまはげ文化ツーリズム	4,024,230 (3,930,000)	○歴史文化遺産ツーリズムのブラッシュアップと商品造成 4,024,230
	▼インバウンド向け誘客	2,033,300 (2,000,000)	○インバウンド誘客促進の強化 2,033,300
	▼共通事項	17,454,307 (17,210,000)	○専門職員の雇用 14,958,773 ○マーケティング 1,507,000 ○モニターツアー 867,746 ○国内誘客の促進 65,514 ○地域気運の醸成 55,274
	総事業費(実績) 交付金計画事業費	28,650,419 (28,087,000)	
	交付金対象経費総額(実績) 交付金額の確定額	28,081,109 14,040,554	

6 事業の効果

(1) 事業の効果

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を大きく受けたものの、事業の目的である地域ブランドの確立と地域経済の活性化につながった。

(2) 事業効果の説明

平成30年度の男鹿のナマハゲのユネスコ無形文化遺産登録及び北前船の日本遺産登録などにより、増加傾向にあった観光客数は、令和2年度に、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、大きく落ち込むこととなったものの、コロナウイルス収束後を見据えた、受入れ体制強化やツアー造成を中心に下記の取り組みを行った。

●スポーツツーリズムの推進

- ・国定公園、日本ジオパークとして、景観の良さが売りの当地域において、マイクロツーリズムの推進、健康増進、移動手段を兼ね、さらに車窓以外から景観を楽しむ手法の一つとして

事業化している e-Bike (電動アシスト付き自転車) を核としたレンタサイクル事業を男鹿駅周辺では継続し、男鹿温泉郷五風でも開業した。

- ・サイクリングに関連しては、男鹿半島のコースや見どころを紹介するサイトである「**OGA BICYCLE PENINSULA!**」を立ち上げ、コロナ禍の中でできる少人数制のサイクリングイベントを実施している。
 - ・アウトドア商品造成の一環として、手ぶらでできる高質なキャンプ商品の販売を実施し、**OGA Summer Village** として好評いただいた。
 - ・キャンプ商品や、市内のアウトドア体験プログラムを集約し、オンライン予約や決済ができるよう、利便性を向上させるエリアゲートを導入し、DMO の収益確保の一助となっている。
- なまはげ文化ツーリズムの推進
- ・ユネスコ無形文化遺産に登録された「男鹿のナマハゲ」について、ナマハゲを核とした伝統文化等の体験を周知し、それに関連した市内文化遺産の活用を推進することで、誘客の推進を進めており、**NAMAHAGE** プロモーションというキャッチコピーで展開を図っている。
 - ・冬季の宿泊需要を高めるために、なまはげ太鼓を活用したイベントのブラッシュアップを図り、着地型旅行商品造成を実施した。
 - ・注目度が高いにも関わらず、受入れ体制に不安のあった雲昌寺のあじさいにおいても、DMO を中心に体制整備に協力し、コロナウイルス対策を講じながら当該年の期間中で約 35,000 人の有料観覧者の受入れに成功した。
- インバウンドの推進
- ・コロナウイルスの影響を大きく受けたものの、収束後を見据えて、海外向けにインターネットを活用した動画配信プロモーションを実施し、その他、域内の観光素材における宣材資料としての動画制作、**WEB** 掲載を行った。
 - ・令和元年度に観光庁事業において作成したわかりやすい英語解説文を用いた説明板の設置や、**WEB** サイトの多言語化を実施した。
- その他
- ・DMO において調査したマーケティングデータからは、当地域の観光について高い満足度を維持しているものの、新型コロナウイルスの影響が大きく、当該年の **KPI** の目標値を大きく割り込んでしまった。収束後の回復、さらにその先の **KPI** 達成に向けて、着実に取り組みを進めていく。

7 今後の方針

(1) 今後の方針

事業の継続（地方創生交付金は令和 4 年度まで事業採択を受けている）

(2) 今後の方針の理由

市と観光協会、観光事業者全体で今後の男鹿半島の観光振興のあり方を考えていく必要があり、その一環として DMO 法人を核に地域のブランディングやプロモーションなどの事業を展開している。その成果も出つつあり令和元年度まで増加傾向にあった観光客数であったが、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて大幅に減少しており、早期の回復と需要拡大が望まれている。また、着地型旅行商品の造成や既存素材のブラッシュアップを通して、地域全体の高品質化、ブランディング化を推進し、地域全体で観光振興に取り組み、地域が稼ぐ仕組みを進めていくことが求められており、事業の継続が望まれている。